

令和4年度宇部市公共交通協議会 第4回会議 会議録

日 時：令和4年（2022年）12月23日（金） 10:00～11:00

場 所：宇部市役所3階 会議室（防災情報センター） Web併用

出席者：17名（欠席者4名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）

三戸副会長（宇部市自治会連合会）

大谷委員（宇部市交通局）

佃代理委員（船木鉄道株式会社 綿部委員代理）

城戸崎委員（宇部第一交通株式会社）

田中代理委員（西日本旅客鉄道株式会社 中村委員代理）

蔦代理委員（中国運輸局山口運輸支局 山田委員代理）

中尾委員（中国地方整備局山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）

保村委員（山口県宇部土木建築事務所）

渡邊委員（山口県観光スポーツ文化部交通政策課）

吉村代理委員（宇部交通労働組合 辻岡委員代理）

吉原委員（一般社団法人宇部観光コンベンション協会）

木原委員（宇部市地球温暖化対策ネットワーク）

森山委員（公共交通利用者）

山根委員（宇部市交通局バスモニター）

萩原委員（山口大学大学院創成科学研究科）

磯中代理委員（宇部市都市政策部 村上委員代理）

事務局：5名

都市計画課 金子課長、羽根主幹、青木副課長、和田係長、金子主任

次 第：1 会長あいさつ

2 議事

（1）小野きずな号の変更

（2）地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費
国庫補助金）に関する事業評価

3 その他

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 小野きずな号の変更

事務局から、資料について説明を行った。

意見等については、以下のとおり。

【委員】

コロナの影響もあり、利用者が減少していることから、利用促進のため、このような運行内容の変更となっていると思うが、コロナ以外に、利用者が減少した要因があるか。

【事務局】

運転士への聞き取りをする中で、デマンド運行は、少人数の利用頻度の高い利用者が減少し、新しい利用者が増えていないことから、このような大きな減少になったものと推測している。

【会長】

例えば、どなたかが、毎週1往復すると、単純に月に8回、年間で100回近くの利用になるので、小野に限らないが、定期的に使っていただける方の有無がすごく大きくて、そういった方が利用されなくなった事情はいろいろあってやむを得ないところがあるが、一番問題は、新しく登録して、使ってくれる方の獲得ができていないところだと思う。

サービスの改善も必要だが、新しい利用者の獲得はどのように考えているか。

【事務局】

今回の改正の案についても、小野の地域振興の会の部会の方と議論をさせていただいて決定した。

小野きずな号を知らない方も多いので、周知をしてほしいとの意見もいただいたのでチラシの全戸配布を行っているが、それが中々成果に結びついていないのが実情である。

【会長】

小野の場合、ふれあいセンターなどと話をして進めていると思ったらいいか。

【事務局】

そのとおり

【委員】

小野地区の人口がわかるか。

【事務局】

小野地区の人口は、令和3年度の10月1日現在の住民基本台帳で、1,098人、65歳以上は628人、70歳以上は508人、15～19歳は16人となっている。

【会長】

小野に限らないが、高齢者の方が皆さん公共交通を使っているわけでは無く、比較的元気な方は車を使ったり、体の調子が悪い方は外出されなかったりする場合もある。

小野地区の地域交通を残して行こうと言う考えに立つのであれば、現在の状況では今後厳しくなっていくと思う。残して行くためには、学生以外の方に使ってもらうことが大事である。

事務局もいろいろ試行錯誤されていると理解しているが、使っていただけそうな方の掘り起しについても、地域と話をしていただきたいと思う。また、福祉部門との連携も必要となってくると思う。

【委員】

ふれあいセンターなどにこられる方は、比較的元気な方だと思う。北部の地域包括支援センターの方や介護業界の方は、高齢者との接点も多いと思うので、そのような方との連携をしていただければ、利用者の掘り起しにもつながると思う。

また、小野に通われている障害者の方もいるが、初めての利用は敷居が高いので、1回目の利用時の支援も考えていただきたい。

【事務局】

貴重な意見である。地域だけではなく、介護施設であるとか、包括支援センターなどとの連携も検討して行く。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）

に関する事業評価

事務局から、資料について説明を行った。

意見等については、以下のとおり。

【委員】

市街地循環線、東部市内循環線「めぐりーな」、黒石線は、路線バスとして運行しているが、なかなかコロナ以降、収支が改善していない状況である。

市街地循環線については、目標をかなり低く設定しているが、運行内容の見直しを少し考えたいと思っている。その他については、周知をしっかりと行い、今後、目標達成ができるように努力していきたい。

【委員】

吉部・万倉線のデマンドについて、利用者数は多くないが、推移は横ばいの状況。利用者は、特定の方が何度も利用したり、万倉小、吉部小の団体利用がある。利用者は、今後減少して行くと思われることから、民生委員の会議などで引続き周知をしていきたい。

【委員】

東岐波、原、桃山の3地区でコミュニティタクシーを運行している。

東岐波線については、続行便があまり出なくなっていることから、以前よりも、少しずつ利用者が減少してきていると感じている。原因として、スーパーの移動販売の利用が増えているのではないかと感じている。

原線については、常連の方がもちろん多いが、新規で利用される方で、定時定路線と

いうことを知らなくて、停留所以外の場所で待たれたりして、定刻となっても車が来ないといった問い合わせがあった。

桃山線については、他と同じで高齢者がほとんどで、買い物・通院のための利用が多くなっている。鶉の島祭りで広報活動を実施するなどの取組を通じて、少しずつ利用者を増やしていくことにつながると考えている。

いづれにしても、利用頻度の高い利用者が非常に多いので、その方が居なくなると急激に少なくなるため、利用者を増やすために、周知活動をもっともっと努力していきたいと思う。

【事務局】（欠席委員に代わり、事務局が聞き取った内容を発言）

西宇部、厚南、藤山の3地区でコミュニティタクシーを運行している。

新型コロナウイルス感染症による外出自粛は、昨年度と比較すると、実績を見れば、3地区とも僅であるが改善してきているが、利用者は依然として外出を控えているように感じている。

また、運行内容の変更について、周知が足りていないのか、まれに、運行曜日などを間違っている利用者からの問い合わせがあるため、更なる周知が必要であると感じる。

運行事業者としては丁寧な対応を心掛け、利用促進に努めたい。

【会長】

事業者の話を聞いて、運行曜日をわかっていない方などは、新規で最近使い始めた方なのかなと思った。そういった方には丁寧な対応をお願いしたい。

【委員】

事業の実施の適切性について、しっかり計画どおり実施されていると感じている。目標と効果達成状況については、目標を達成しているところと、出来なかったところあると思うが、引続き、それぞれの地域に応じた、きめ細かい利用促進や周知を行っていただき、さらなる、利用者の拡大と開拓に努めて欲しい。

【会長】

先ほど、スーパーの移動販売に流れているかもしれないとの話もあったが、市民の皆さんの買い物機会を確保するという面では、解決されているのかもしれない。

とは言え、出かけなければならないという方もいると思うので、利用促進の取組は続けていただきたいと思う。

交通局が運行しているものはバス路線、タクシー会社が運行しているものはコミュニティタクシーで地域ごとに運営協議会がある。それぞれ利用促進をしていただくのが大きいと思う。二俣瀬と吉部・万倉のデマンド交通は、小野と同様の課題を抱えていると思うので、行政が入っているいろいろな取組んで欲しい。

3 その他

【事務局】

令和4年度宇部市公共交通協議会事業（バスすごろく、バス運転士ウェブサイト）に

ついて事務局から説明を行った。

【会長】

山口大学も宇部市外からの学生が過半数を占めている。企画した学生の思いとしては、バスの利用促進もあるが、宇部市の良さを感じ、学生がまちづくりに関与するきっかけになってほしいという思いもあったと聞いている。

いろいろ反省点もあったと聞いているが、まちづくりなどに学生を含めて関与できるといいなと感じている。

【委員】

バスの運転士が非常に不足しており、現在8人ほど不足している状態である。教育の期間も2か月の期間を要し、入ってもすぐに乗務することができない。

本日も雪の影響で1時間半の遅れが出ており、まだ戻っていない状態である。せっかくバスを利用したいと思ってもバスが来ないという状態のため、バスナビ等で運行状況の確認をお願いしたい。

それと、交通局では4月にダイヤ改正を予定している。コロナ過以降、利用者が減少し、なかなか戻らない状況であり、平日においては、利用の少ない便について数便ほど減便する予定である。

また、最終バスについても、時間の繰り上げを考えており、今、運転士の労働条件の改善と言うことで、今まで8時間空ければよかったが、11時間空けないといけないと国からの指導もあり、そういった改善も含めて、少しずつ行っていこうと考えている。

現在、作業を進めており、本日の会議ではお知らせ出来ないが、改めて、皆様にはお知らせさせていただく。

【副会長】

市が令和5年度から「地域活動の日」をスタートさせる。こういった活動も合わせて、公共交通のことを考えて欲しい。

【会長】

例えば、デマンドやコミュニティタクシーを地域活動で活かせるようなことができればいいのかなと思う。

先ほどの交通局のダイヤ改正の話で、利用者にとって減便は無い方が望ましいが、一方で運転士の不足の問題や、時間帯によっては利用がかなり落ちている状況もある。

平日の昼間、高齢者の比較的動かれる時間帯のサービスを維持すること、諸問題の対応の両立となると、夜間や日曜日のある程度の変更はやむを得ない部分もあると思う。

とはいえ、サービスが低下することは事実なので、いろいろな場で説明をお願いしたい。

【委員】

2点ほどJR西日本から情報提供をさせていただく。

1点目は、ダイヤ改正に関わることで、来年の3月18日に改正を予定しており、宇

部市に関わる、宇部線、小野田線、山陽本線で言えば、大きな増便減便や、時刻変更はないが、宇部線は昼の時間を中心にワンマン運行を行っているところ、改正後は終日ワンマン運行となる。

2点目は、ICカードのサービス拡大に関する事で、山陽本線の徳山から下関と山陽新幹線の全区間でICカードサービスを来年4月1日から開始する。宇部市に関わる部分は、山陽本線の厚東駅と宇部駅が対象となる。宇部線は対応していないが、対象区間においては、ICカードを利用することで、タッチするだけで乗車できるので、ぜひ活用をお願いしたい。

【委員】

厚東駅にチャージ機を設置する予定があるか。

【委員】

駅は無人であるが、自動券売機でチャージが可能である。

【事務局】

次回の協議会の開催予定について、事務局から説明を行った。